



あらゆる作業現場の能率向上と安全確保に貢献するインターコミュニケーションシステムです。

概要・特長

概要

- ・ 小電力無線を利用した免許が不要な無線通信システムです。通信エリアは半径最大約100m^{*1}で、オプションの選択によりエリアの増設^{*2}が可能となります。
- ・ 親局^{*3}から携帯機への一斉呼出・通話はもちろん、携帯機同士の双方向同時通話つまり携帯電話のように使用できます。通信コストを抑え、情報の共有化を求めるお客様に最適のシステムです。
- ・ タフな環境での屋外作業の連絡用としてはもちろん、ビルメンテナンスなど屋内における通信や、ファーストフードなど屋内と屋外にわたる通話環境にも対応、お客様のニーズに合わせて幅広く対応できる通信システムです。

注) ^{*1} 半径約100m：通話エリアは見通しで、屋外約100m、屋内約30mとなり遮蔽物や通話環境により変動します。

^{*2} エリアの増設：エリアの増設には、オプションの回線補償器が必要となり無線局免許が必要となります。無線局の申請業務にあたっては、弊社にて承ることも可能です。

^{*3} 親局は「主装置」と「操作器」と「アンテナ」からなります。

特長

■ 双方向の同時通話が可能

電話のように携帯機同士の双方向通話ができます。

■ 16台まで増設可能

主装置1台につき最大16台の携帯機が運用可能になります。

標準システムであれば設置したその場から使用が可能となります。

主装置を増設すればエリアも携帯機も増設できます。

■ サービスエリアの拡大（オプション）

回線補償器の利用により、サービスエリアの拡大が可能になります。

回線補償器とは、回線の損失分を補い送受信信号を増幅するオプション製品です。

回線補償器の使用にあたっては、電波法上、基地局としての免許申請が必要となります。

■ 小型軽量・長時間使用可能な携帯機

連続使用 約10時間※

※ JICS IIは常に電波を送受信しているシステムです。連続使用時間は、正常に受信できる状態で移動した場合の目安です。なお、電池の充電状態、気温などの使用環境、利用場所の電波状態（電波が届かないまたは弱い場合等）などにより、変動します。

■ 親局からの一斉呼び出しが可能です。

操作器から携帯機をもった全員に一斉呼出ができます。もちろん、個別での呼出も可能です。

携帯機から操作器への呼出もでき、さらに非常時の緊急呼出も可能になりました。

■ グループ相互の通話

簡単な接続で2つ以上の主装置をつなぐことで、他グループの携帯機との通話も可能になります。

■ 騒音の中でも活躍します。（オプション）

携帯機を送受話器には騒音防止の遮音型送受話器や咽喉マイクなどのオプションを用意しております。

■ JRT-511B/512Bシリーズがそのまま使えます

前シリーズの主装置・携帯機・操作器がそのまま使用できます。

既存のシステムに携帯機の増設などができます。

通信機能・使用例

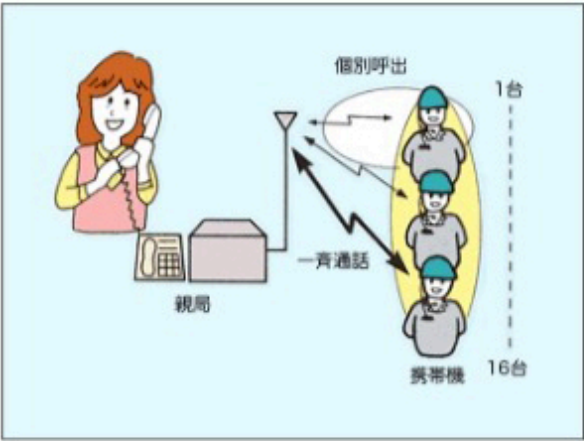
通信機能

項目	通話	一斉呼出	個別呼出	グループ呼出	親局呼出	親局緊急呼出
携帯機⇄携帯機	○	-	-	-	-	-
操作器⇒携帯機	○	○	○	○	-	-
携帯機⇒操作器	○	-	-	-	○	○
操作器⇄操作器 最大2台まで接続可能	○	-	-	-	○	-

使用例

豊富なオプションを取り揃え、現場通信のさまざまなニーズにお応えします。

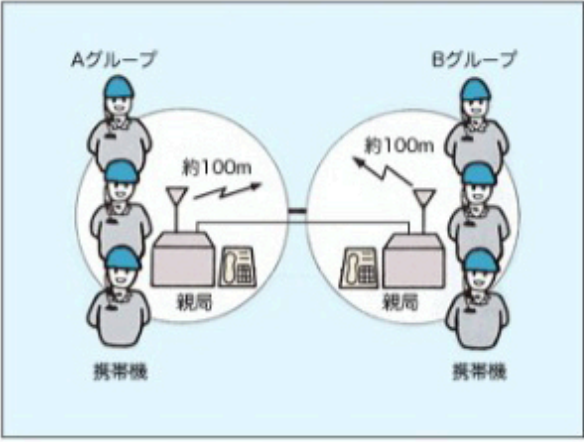
■ 親局⇄携帯機（グループ）



親局は「主装置」と「操作器」と「アンテナ」からなります。

- ・親局と携帯機、また、親局を経由して携帯機相互間でも同時送受話が行えます。
- ・主装置1台につき携帯機は最大16台まで使用できます。
- ・操作器から各携帯機への呼び出しは、個別に行えます。なおこの場合「ピー」という呼出音またはパイプレータで相手に知らせます。
- ・サービスエリアは親局のアンテナを中心にして約100m(見通し範囲)です。

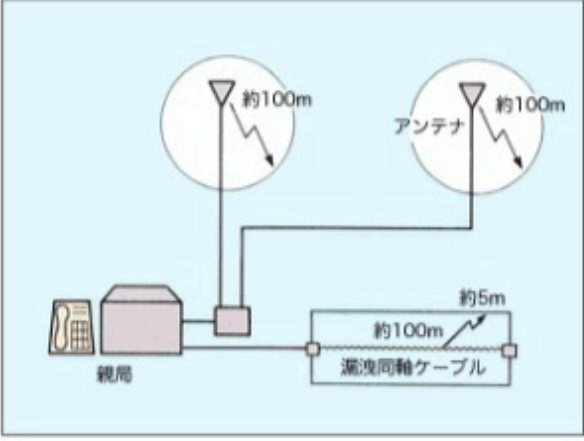
■ グループ相互の通話



- ・2つ以上の主装置を使用する場合、ライン出力端子どうしを接続することにより、他グループの操作器や携帯機と同時通話が行えます。
- ・サービスエリアは各親局のアンテナを中心にして約100mです。

通話エリアは見通しで、屋外約100m、屋内約30mとなり遮蔽物や通話環境により変動します。

■ サービスエリアの拡大が可能



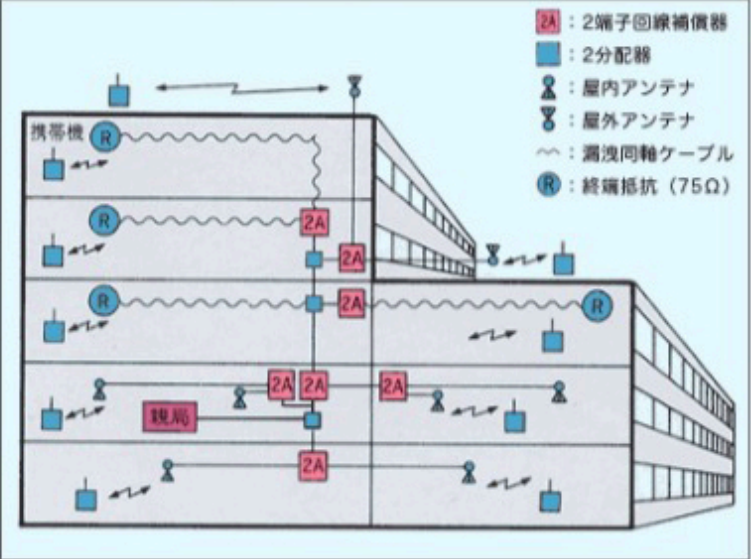
- ・サービスエリアは親局アンテナを中心にして約100m(障害物により若干到達距離が変わることがあります)ですが、下記の各オプションを使って、アンテナを分散設置することにより、通話エリアを自由に拡大することができます。
- ・オプション部品：回線補償器／分配器／終端抵抗器／同軸ケーブル／アンテナ

通話エリアは見通しで、屋外約100m、屋内約30mとなり遮蔽物や通話環境により変動します。

エリアの増設には、オプションの回線補償器が必要となり無線局免許が必要となります。

無線局の申請業務にあたっては、弊社にて承ることも可能です。

■ 通話エリアの設定例



通話サービスエリアは、親局のアンテナを中心にして屋外で約100m、屋内で約30mですが、回線補償器、分配器、漏洩同軸ケーブルなどを使えば、通話エリアは、自由になります。

エリアの増設には、オプションの回線補償器が必要となり無線局免許が必要となります。

無線局の申請業務にあたっては、弊社にて承ることも可能です。

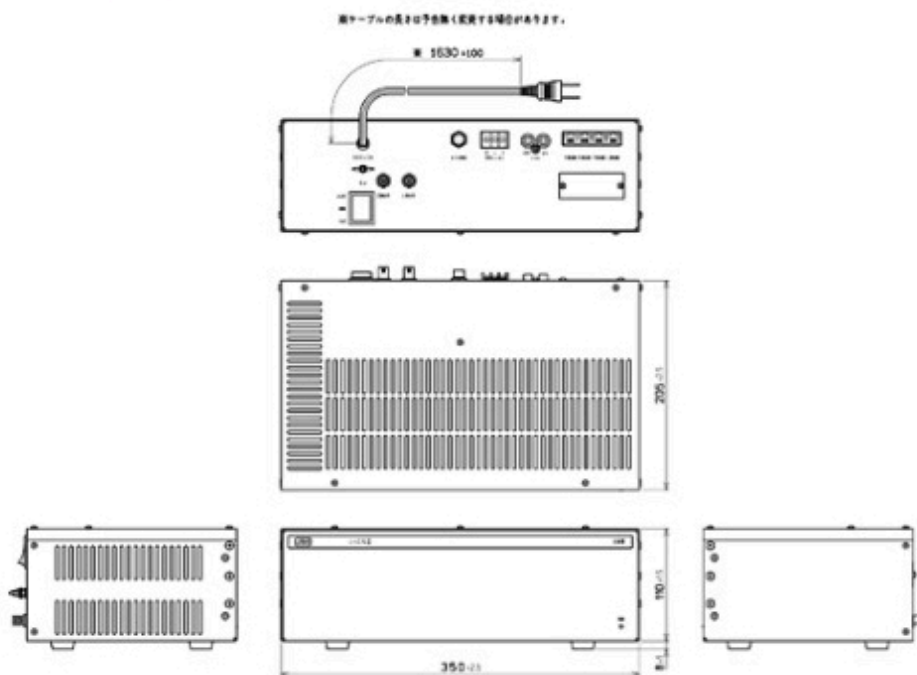
仕様・外形図

主な仕様

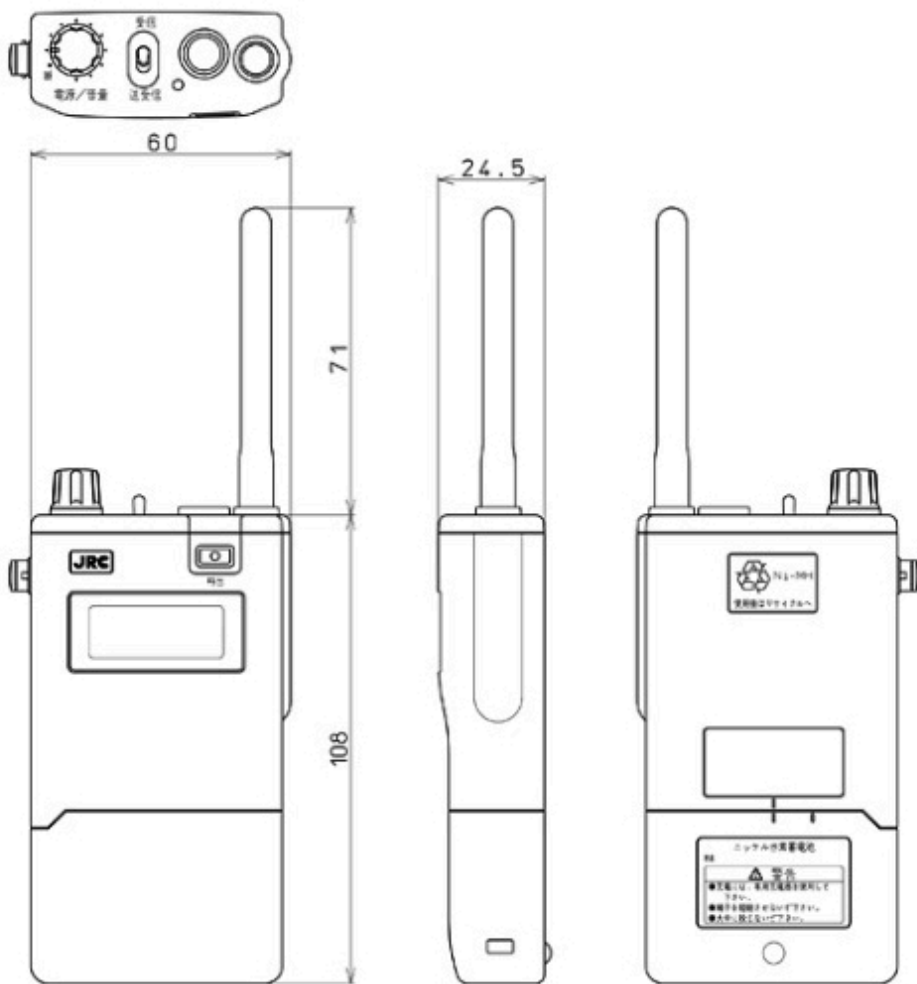
	主装置 (JRT-611/JRT-611A)	携帯機 (JRT-612)
電波形式	F3E および F2D	
通話方式	復信方式または半複信方式（会議通話方式）	
周波数制御方式	シンセサイザー方式	シンセサイザー方式
使用周波数	送信454MHz帯 受信413MHz帯 送信24ch/受信72ch	送信413MHz帯 受信454MHz帯 送信72ch/受信24ch
送信出力	1mW	1mW
呼出機能	個別：16(1024)	親局呼出：1
LCD表示	—	自局番号、バッテリー容量、受信電界強度、その他
スケルチ方式	トーンSQ+ノイズSQ方式	トーンSQ+ノイズSQ方式
周囲温度	-10℃～+50℃	-10℃～+50℃
使用時間	連続	約8時間(連続送受信、20℃)
電源	AC100V	ニッケル水素蓄電池(2.4V)
外形寸法	約350(W)x110(H)x205(D)mm	約60(W)x108(H)x24.5(D)mm (突起物を除く)
質量		約160g (電池パック含む)
その他	受信部増設により携帯機16台まで同時通話可能(標準1ch実装)	呼出は音またはバイブレータの2タイプ

外形図

主装置 JRT-611/JRT-611A外形図



携帯機 JRT-612外形図



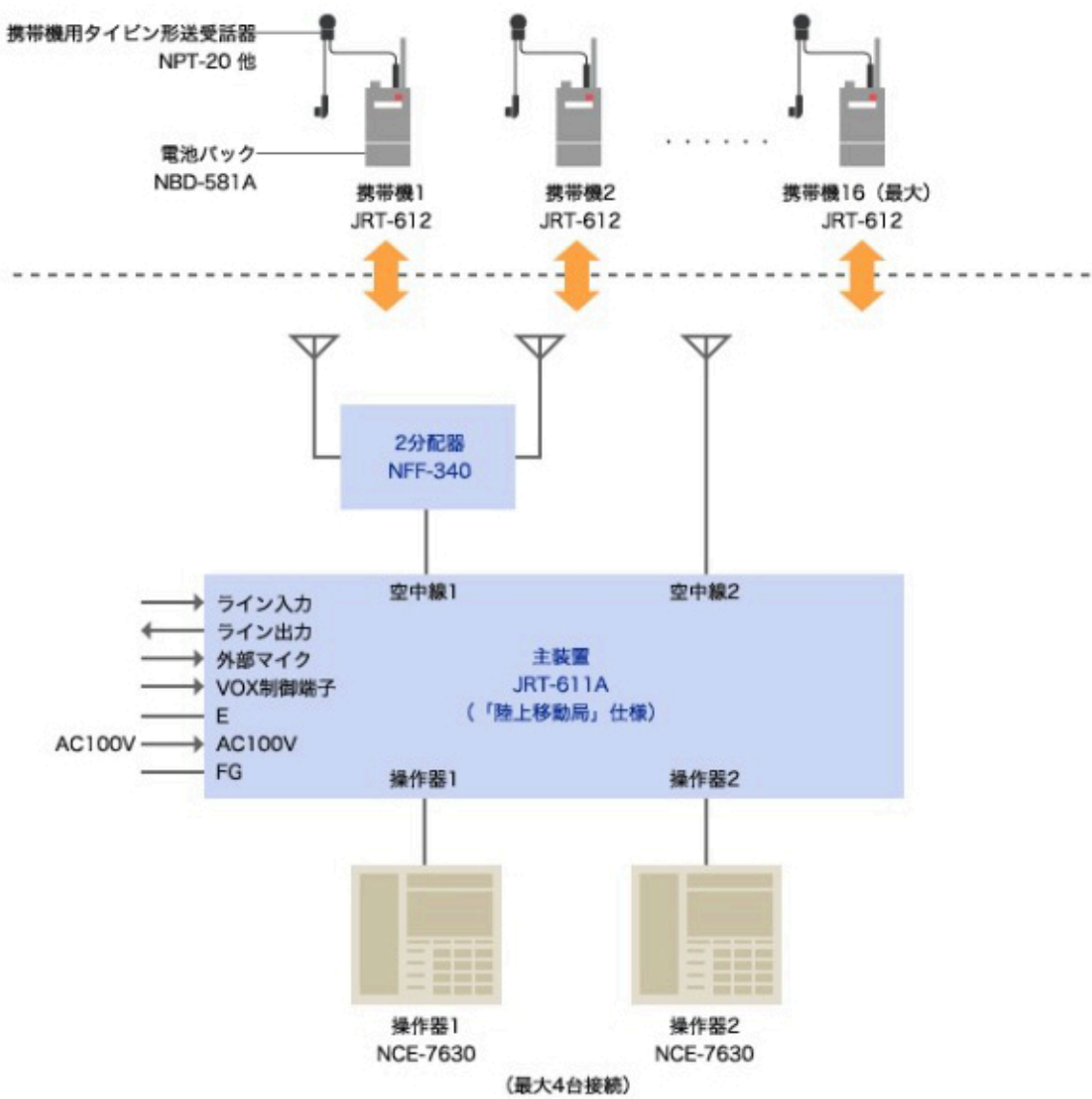
構成例

標準構成

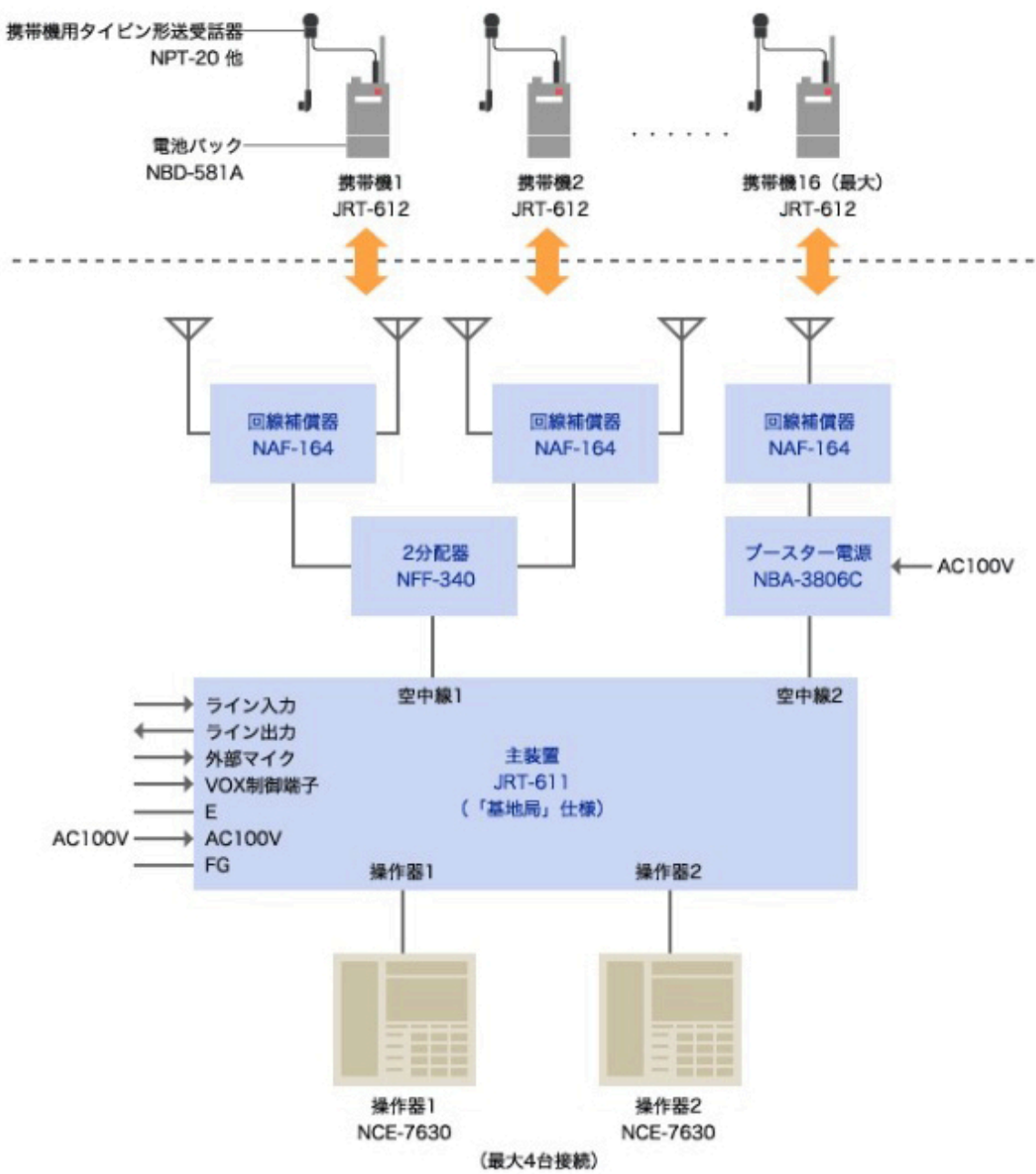
携帯機	JRT-612
主装置	JRT-611またはJRT-611A

構成例

「陸上移動局」仕様の構成例



「基地局」仕様の構成例



オプション

受信ユニット CMA-860

子機一台に対して1枚必要です。最大16枚まで実装可能。



回線補償器 NAF-164

基地局タイプのJRT-611に接続し延長したケーブルのロスを補います。



操作器 NCE-7630

主装置(JRT-611/611A)に最大2台接続することができます。



操作器用ケーブル 6ZCPC00070



ダイポールアンテナ DP-4508

利得：2.15dBi

屋内・屋外用



ホイップアンテナ AZ504B

利得：2.15dBi

マグネット基台MRA使用



室内アンテナ NAW-44

利得：0.15dBi

天井取付用



電池パック NBD-581A

2.4V

1300mAh

ニッケル水素使用



急速充電器 NBA-4465

子機4台同時充電可能

充電時間：約1時間



頭載型送受話器 NPT-13A



咽喉マイク NPT-17



タイピン型送受話器 NPT-20



ヘルメット型送受話機 NPT-24A



遮音型送受話機 7UMCN0004

